

千葉大学予防医学センター

未来世代のために

千葉大学予防医学センター (<https://cpms.chiba-u.jp>) には、「環境健康学」、「栄養代謝医学」、「社会予防医学」、「グローバル次世代予防医学」、「健康都市・空間デザイン学」、「運動器疼痛疾患学」の6つの研究部門と3つの寄附研究部門があります。

人の健康は、遺伝的要因と環境的要因の双方から影響を受けています。遺伝子そのものを変えることはできませんが、環境要因（室内・室外環境、食生活、生活習慣など）の中には変えることができるものもあります。

もし、健康に影響する環境要因を特定し改善することができれば、人はより健康に生きていくことができるかもしれません。病気になってから治療をすることも大切ですが、病気になる前に予防をすることができれば、本人も家族も、そして社会全体としても負担を軽くし、健康な生活を楽しむ期間を長くすることができます。

千葉大学予防医学センターでは、環境省による「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」の千葉ユニットセンターとして千葉県内で調査を行っています。エコチル調査は、2011年から3年間に全国の対象地区で生まれたお子さん10万人を対象として13歳になるまで追跡調査を行い、健康に与える環境要因を解明し環境行政に生かすことを目指しています。他にも、千葉大学予防医学センター独自のコホート調査「こども調査」も行っており、

これらの調査の中で、参加者の皆さんの血液や尿などの生体試料を収集・保管し、同意をいただけた一部の方々のご自宅や周辺環境の調査も行っています。

また、室内空気中や、人体サンプル中の化学物質を分析・測定する精密機器を複数導入し（ISO/IEC 17025取得）、環境中の微量化学物質と人体の健康影響との関連について研究しています（写真1: LC-QToFMSの画像）。

また、健康を意識しなくても「住んでいるだけで健康になる社会づくり」を目指した産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラムOPERA/WACo（Well Active Community）を多くの企業と共に推進し、未来世代が健康に生まれ、生きることのできる社会づくりを研究しています。

その他、国際的に活躍できる人材育成を目指し、ヨーロッパ研修ツアーを毎年開催しています（2020年、2021年はコロナ感染症のため休止）。ドイツ・ベルリンのシャリテ医科大学、フランス・ニースのコートダジュール大学などとの国際共同集中講義、スイス・ジュネーブの国連機関研修ツアーなど、他には無いプログラムを開催し、国際的な視野を持つ研究者の育成を進めています（写真2: スイス・ジュネーブのWHO本部訪問）。

ご興味のある方は、ぜひ当センターホームページを見てみてください。

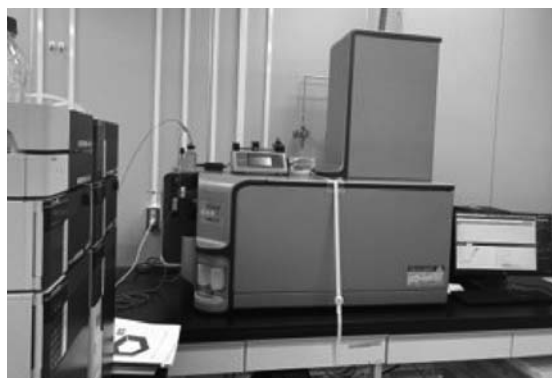


写真1 LC-QToFMS

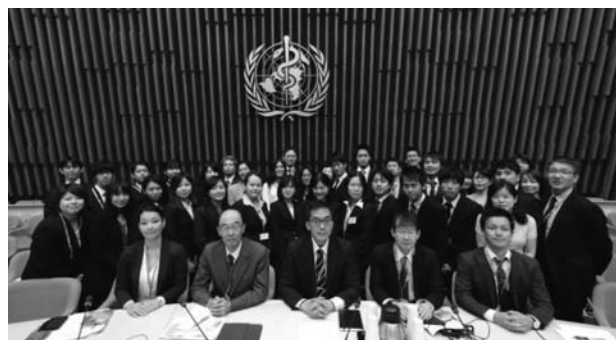


写真2 WHO本部研修

（千葉大学予防医学センター，教授，戸高恵美子）